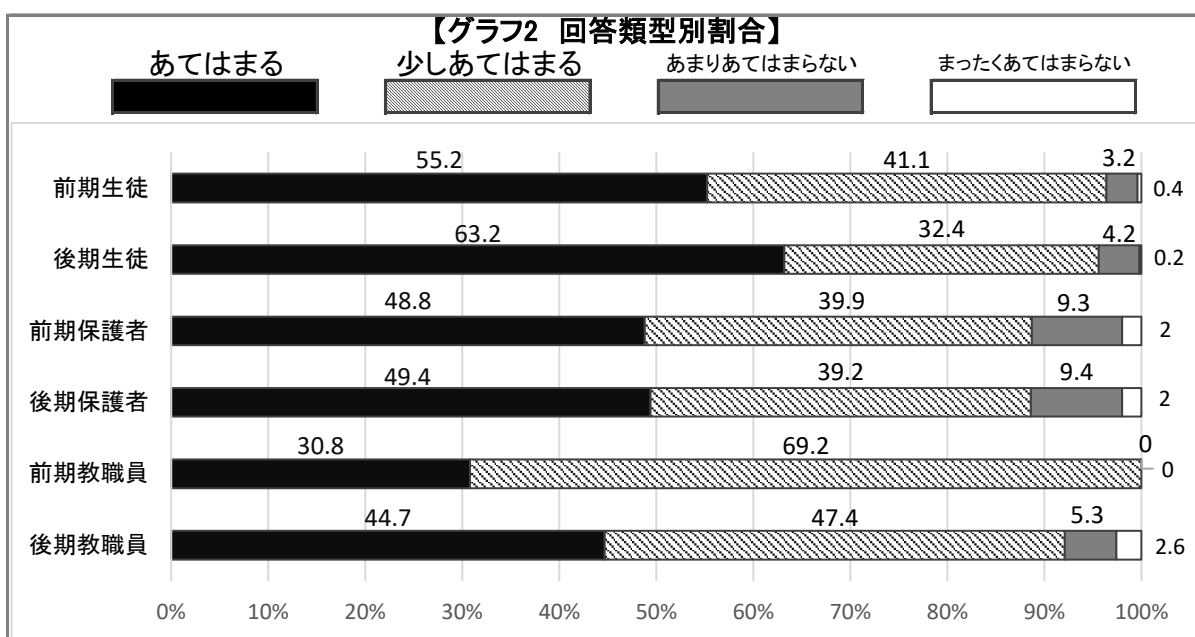
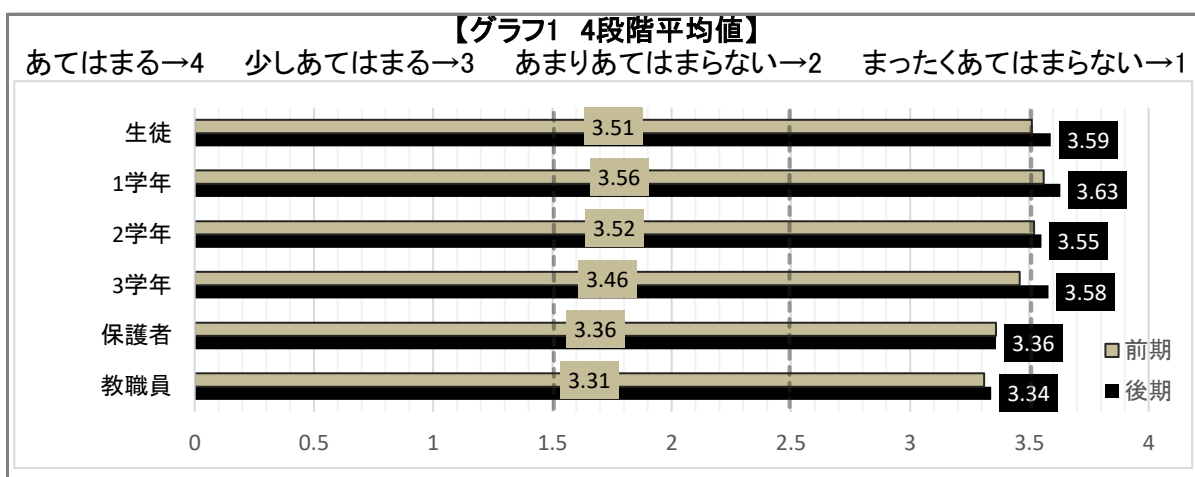


No1	まなび	学び合い
福津市	④ 友達と話し合う活動を通して自分の考えを深めたり広げたりできたか	
中プロ	(共に学ぶ) 友達と共働して考えを練り上げ、課題を解決することができる	

福間中	項目	達成度	
		前	後
生徒	友だちと話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりして課題を解決することができる。	A →	A
保護者	お子さんは、友だちと話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることができる。(お子さんとの会話から)	B →	B
教職員	授業において、子どもが友だちと話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりして課題を解決できるように指導を工夫している。	B →	B

達成度は【グラフ1 4段階平均値】が、3.5以上→A 2.5以上→B 1.5以上→C 1.5以下→D



【考察】

【結果】生徒、教員ともにポイントが上がっていた。生徒のポイントが伸びた背景として、セルフ授業の実施によって話し合う(教え合う)ことへの敷居の高さが緩和されたと考えられる。また、3年生は受験に向けて生徒同士の教え合いの機会が増えたことによって、ポイントがより伸びたと考えられる。

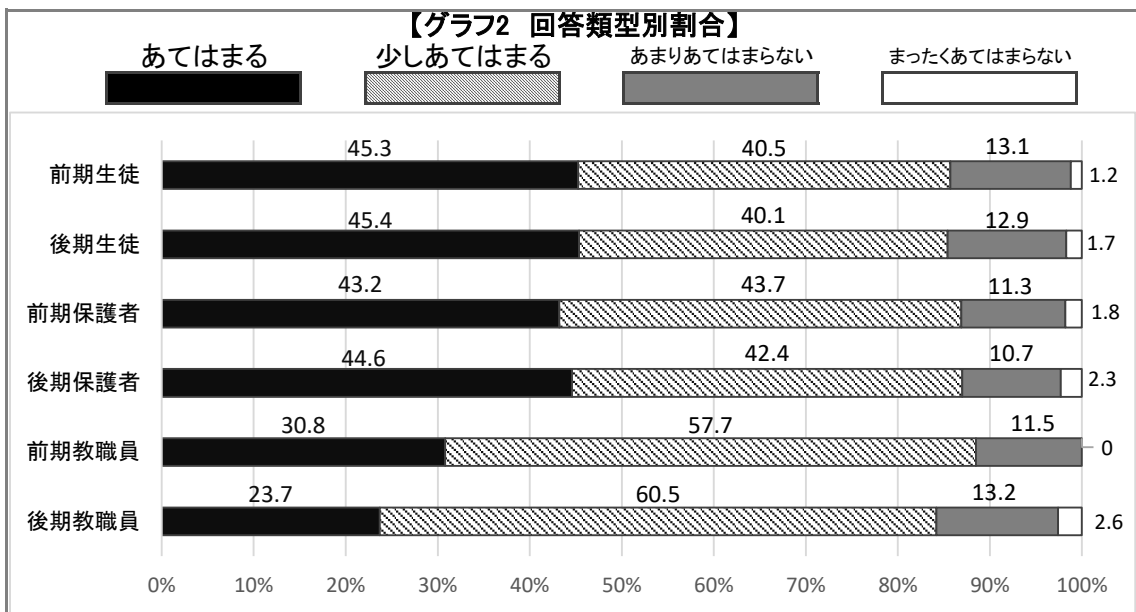
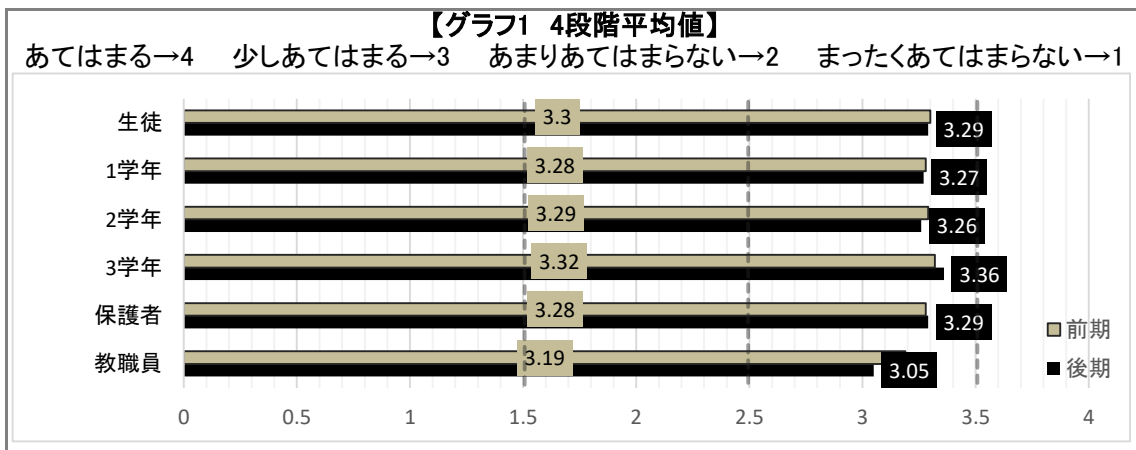
【課題】学習活動の保護者への周知が不足していて、保護者への質問項目が判断がしづらいのと、教員間での意識の差があった点が課題である。

【改善】生徒たち同士で、誰もが、話し合いや議論に参加できるように話し合いのモデルを学校統一で用意したい。また、話し合いでの立ち回り(司会の方法など)を誰もができる支援を行いたい。

No2	まなび	家庭学習
福津市	⑥ 平日の家庭学習時間1時間以上の割合	
中プロ	(自ら学ぶ) 進んで1日70分以上の宿題、予習を含めた家庭学習ができる	

福間中	項目	達成度	
		前期	後期
生徒	課題意識を持って、主体的に家庭学習(宿題・予習・復習・塾など)を行っている。	B →	B
保護者	お子さんが家庭学習(宿題・予習・復習・塾など)を行うように見守っている。	B →	B
教職員	家庭学習が習慣化するように各教科の宿題や自学、週末課題などの量や質を工夫している。	B →	B

達成度は【グラフ1 4段階平均値】が、3.5以上→A 2.5以上→B 1.5以上→C 1.5以下→D

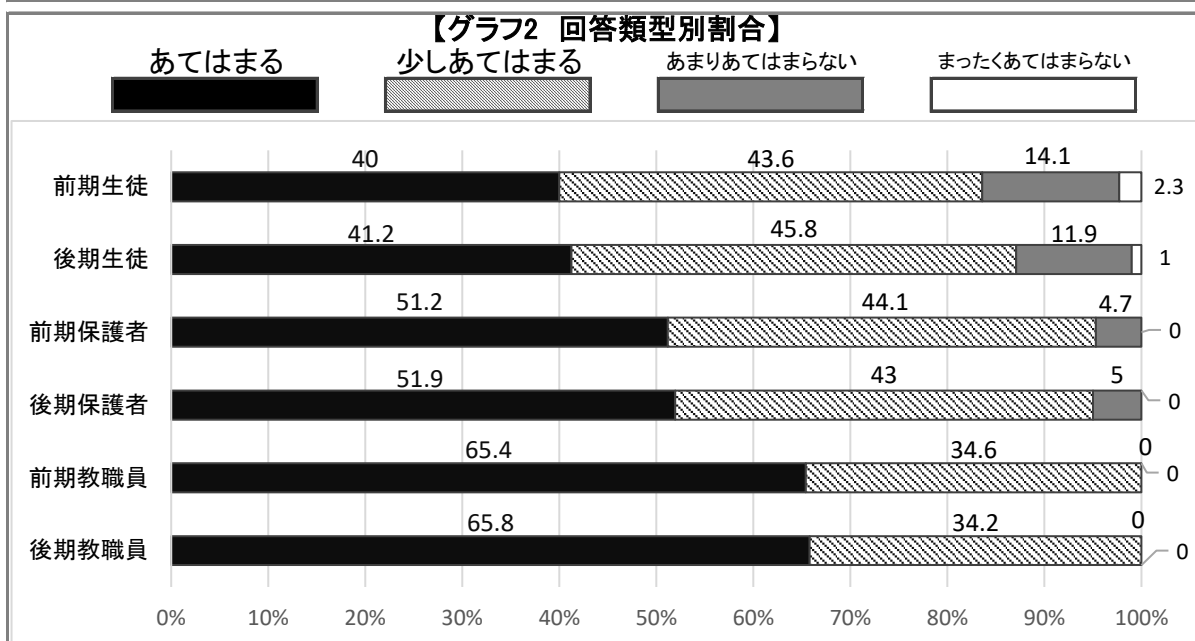
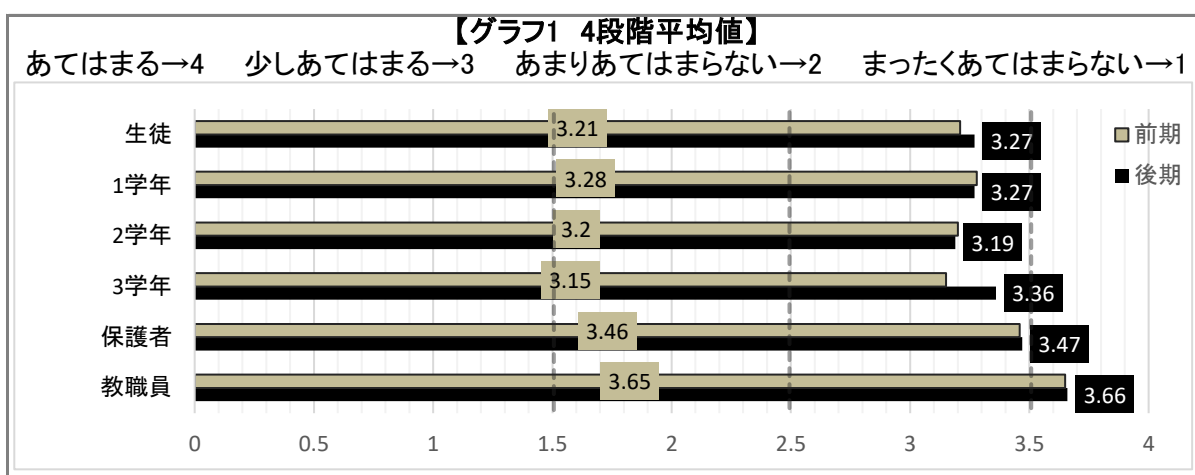


【考察】
【結果】生徒の数値が若干減少していた。日々の学校からの宿題がマンネリ化していることが背景にあると思われる。また教師は、毎日、宿題(自学ノート)チェックをする中で、「家庭学習できている・できていない」の基準が上がっていき、生徒の家庭学習結果に対する評価基準が厳しくなっていると思われる。
【課題】教師それぞれの取り組みに関して、情報共有があまりなされていない。また、低学力の生徒への補充学習を実施したが、主体的な家庭学習を促すことに対しては有効ではなかった。
【改善】「何を学習するのか」や「何が自分の課題か」について、意識を持たせる取り組みを、検討し実施していきたい。保護者に対して、「家庭学習のチェックシート」を作成するなど、家庭でも学習支援をしてもらえるような方策も検討していきたい。

No3	こころ	自尊感情
福津市	① 自分にはよいところがあると思う	
中ブロ	(自信をもつ) 学校生活や地域の活動の中で、自分の良いところを伸ばすことができる	

福間中	項目	達成度	
		前	後
生徒	自分にはいいところがあり、自分で伸ばそうとしている。	B →	B
保護者	お子さんのいいところを褒め、励ましている。	B →	B
教職員	生徒を褒めたり、生徒のよいところを伸ばす指導をしたりしている。	A →	A

達成度は【グラフ1 4段階平均値】が、3.5以上→A 2.5以上→B 1.5以上→C 1.5以下→D

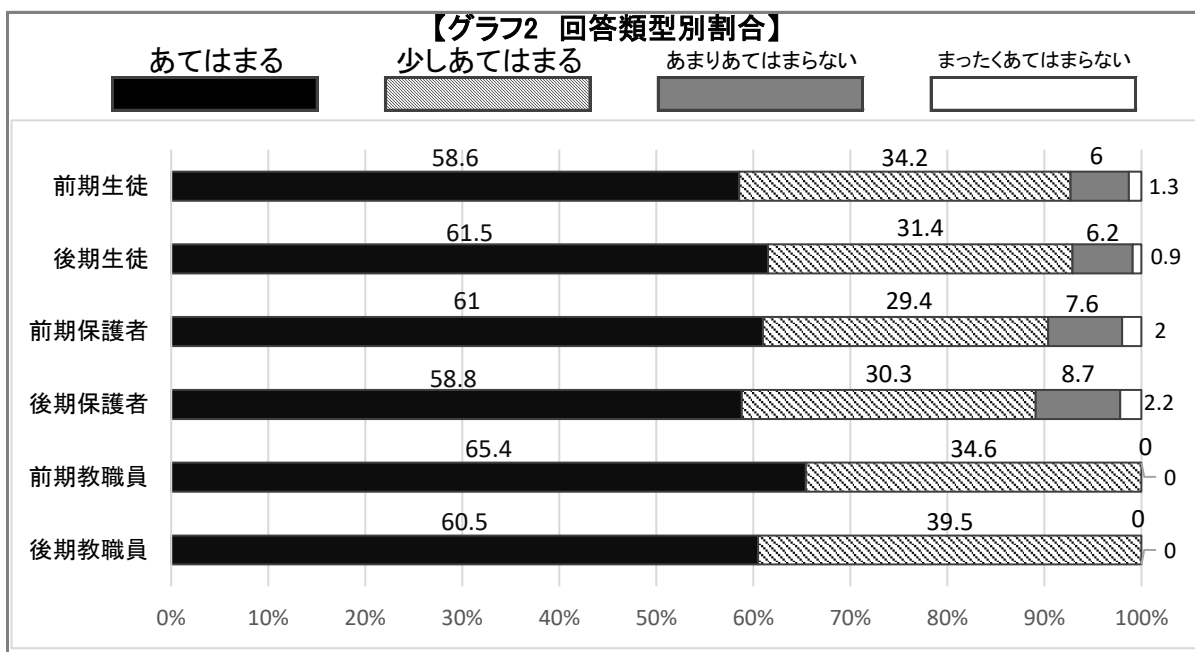
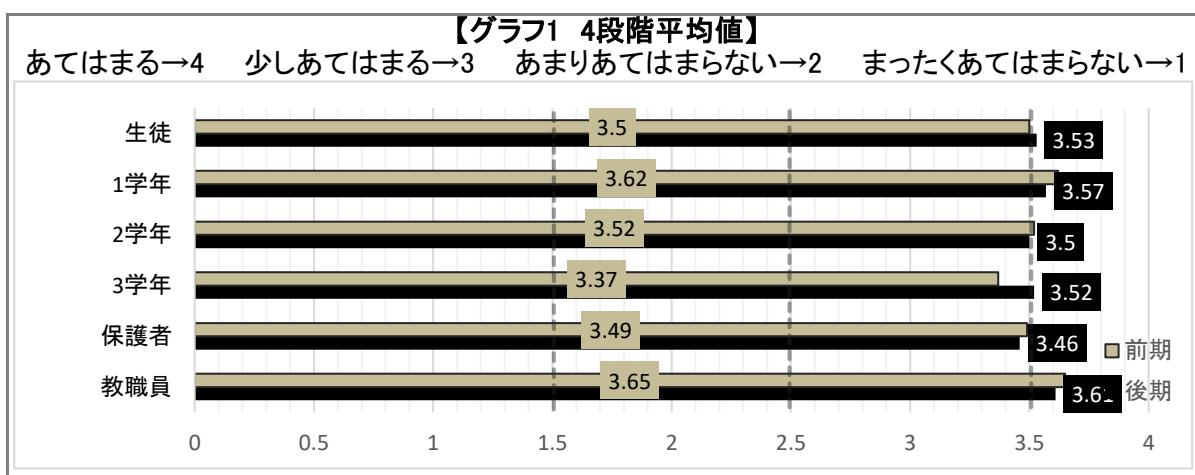


【考察】
【結果】3年生は、一昨年が2.9だったことを考えると3.36までよく伸びた。生徒全体としても、昨年度は3.1だったのが今年度は3.27に伸びた。コロナの影響がなくなり、学校行事やOSの取り組み、生徒会活動や部活動を通して、自分の良さを知り、自分が成長していることを実感している生徒が増えていると思われる。特に、3年生は、進路選択への取組(進路面談、面接練習)に前向きに取り組んでいた。
【課題】まだまだ上がって欲しい項目であり、全国比を常に上回るレベルにはなっていない。役割を与えたり、活躍の場を増やしたりするなどの、工夫が必要である。
【改善】自尊感情は、周囲との関係性で培われるので、クラスや部活動内でお互いをリスペクトしあう仲間づくり、大人からの肯定メッセージが溢れる校内環境づくりに努めたい。個人差がある項目なので、ひとり一人の生徒への「目配り・気配り・心配り」を、大人が心がけたい。

No4	こころ	学校生活の充実
福津市		／
中プロ		／

福間中	項目	達成度	
		前	後
生徒	学校での生活は楽しい。	A →	A
保護者	お子さんは学校での生活を楽しんでいる。	B →	B
教職員	生徒が充実した学校生活を送れるように指導を工夫している。	A →	A

達成度は【グラフ1 4段階平均値】が、3.5以上→A 2.5以上→B 1.5以上→C 1.5以下→D



【考察】

【結果】生徒は、昨年度Bが今年度はAになり、1年を通してAだった。アフターコロナにより日常が回復して本当に良かった。特に3年生は、制限から日常になる中で、3年間を振り返って、より充実感を感じているようである。

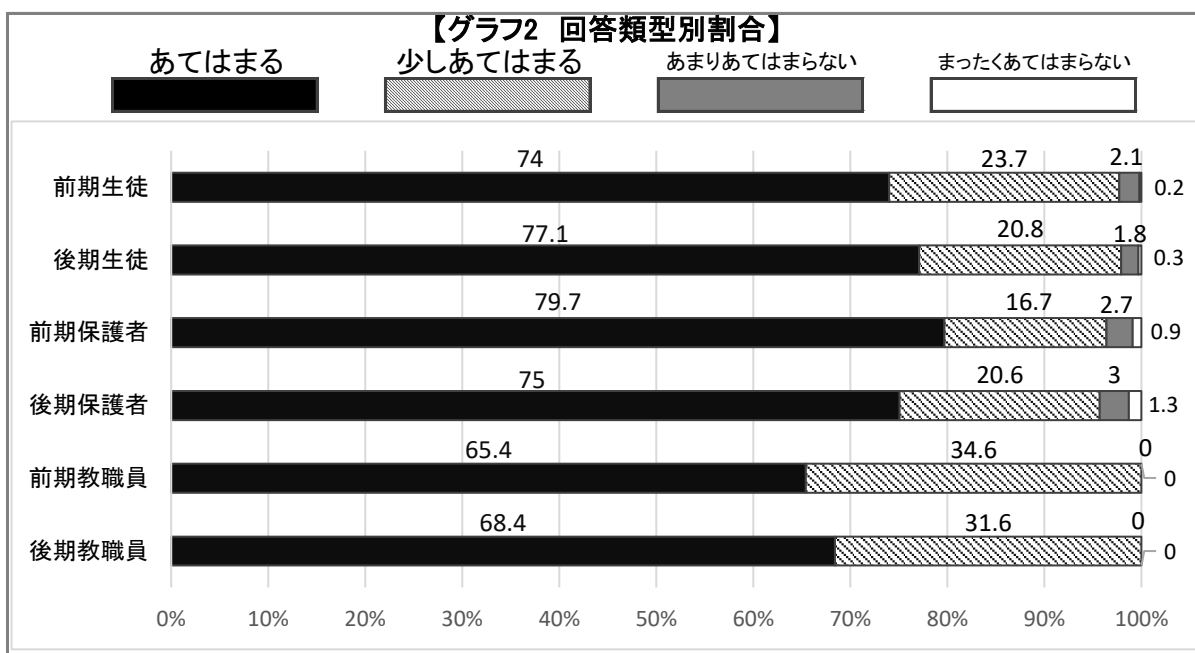
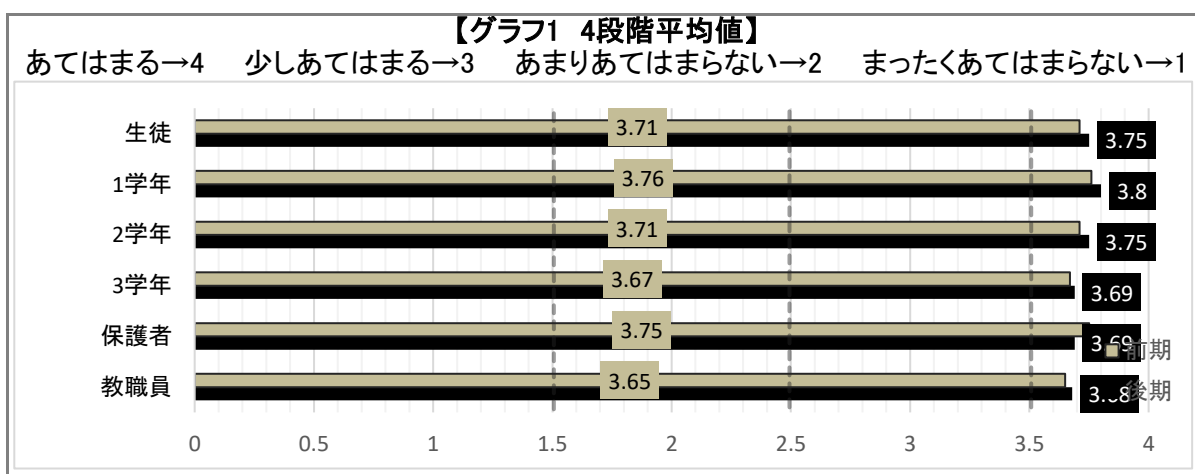
【課題】保護者が少し数値を落としてきているのは、幾つかの負の風評が影響しているのかもしれない。学校が、保護者や地域との円滑なコミュニケーションを図ることが課題である。

【改善】全校や全学年での動きが取りづらく、過大規模化の問題が常に障害となるが、うまく対応しながら工夫をしているので、生徒は満足を維持している。コミュニティスクールの機能を活かして、常に多くの大人がかかわる充実感のある学校生活を、これからも実現していきたい。

No5	こころ	規範意識
福津市	② 学校のきまり(規則)を守っている	
中プロ	／	

福間中	項目	達成度	
		前	後
生徒	学校のきまり(時間や服装・頭髪など)を守っている。	A →	A
保護者	お子さんは学校のきまり(時間や服装・頭髪など)を守って生活している。	A →	A
教職員	学校のきまり(時間や服装・頭髪など)を守るよう日常的に指導している。	A →	A

達成度は【グラフ1 4段階平均値】が、3.5以上→A 2.5以上→B 1.5以上→C 1.5以下→D



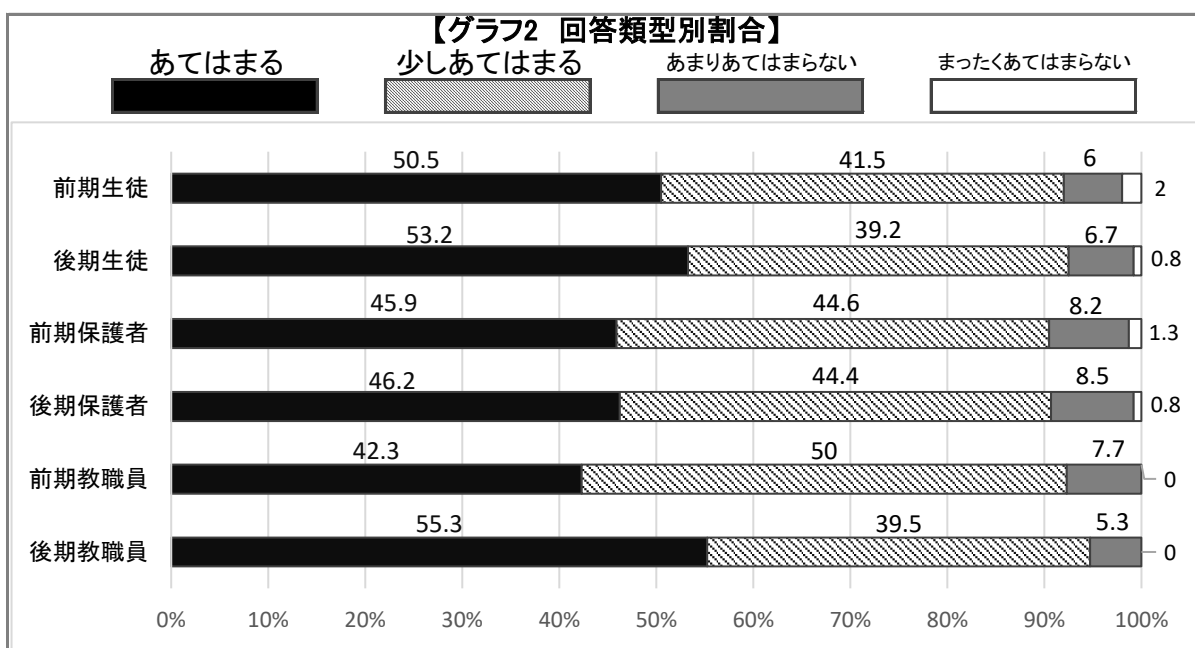
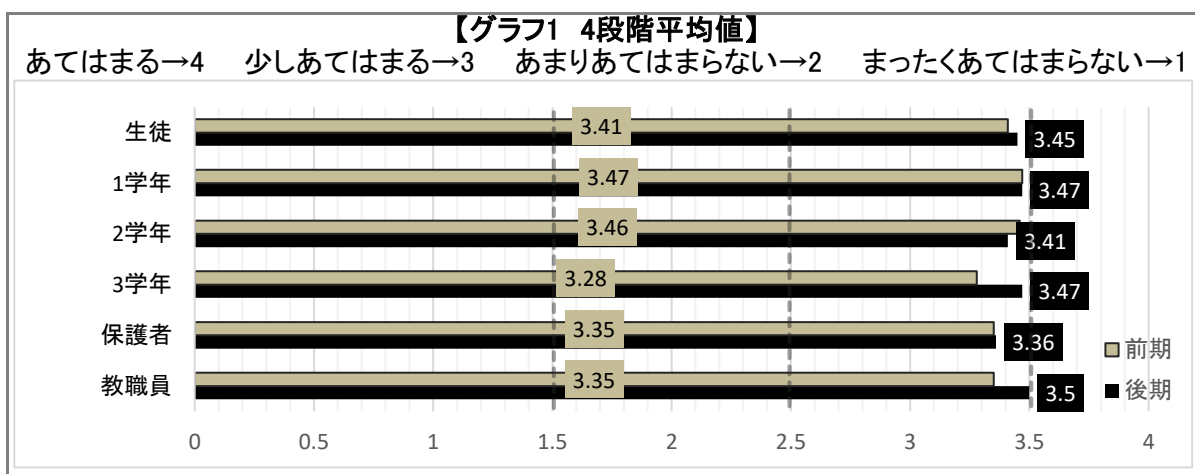
【考察】

【結果】毎年三者ともA評価が続いている。規範意識は高い。
【課題】教師主導でなく、生徒が主体になった活動を通して、きまりを守る校内の空気感を、生徒達で作っていくことが課題である。また、教師は「日常的に」という質問文の表現があるため、自己評価をやや厳しく回答しているようである。
【改善】福間中学生会が代々受け継いできた「5つの誓い」や「福まねき人権宣言」を、年度初めや生徒総会の時だけでなく、日頃の学校生活で、常に生徒達に意識させる空気感を作っていきたい。また、昨年度、校則の改定をしたが、教師間での指導基準にぶれがあり、生徒達への日常的な指導が徹底されていないので、共通理解をしていきたい。

No6	こころ	あいさつ
福津市	／	
中プロ	(関わりを広げる) 挨拶の意義を理解した上で先生や友だち地域の方に進んで挨拶をしている	

福間中	項目	達成度	
		前	後
生徒	先生や友だち、地域の方に進んであいさつをしている。	B →	B
保護者	お子さんは、先生や友だち、地域の方に進んであいさつをしている。	B →	B
教職員	生徒が先生や友だち、地域の方に進んであいさつをするよう啓発指導をしている。	B →	A

達成度は【グラフ1 4段階平均値】が、3.5以上→A 2.5以上→B 1.5以上→C 1.5以下→D



【考察】

【結果】教師が13ポイントも上がり、A評価になった。教師による挨拶指導に力が入っている中、生徒はB評価で大きな変化はない。

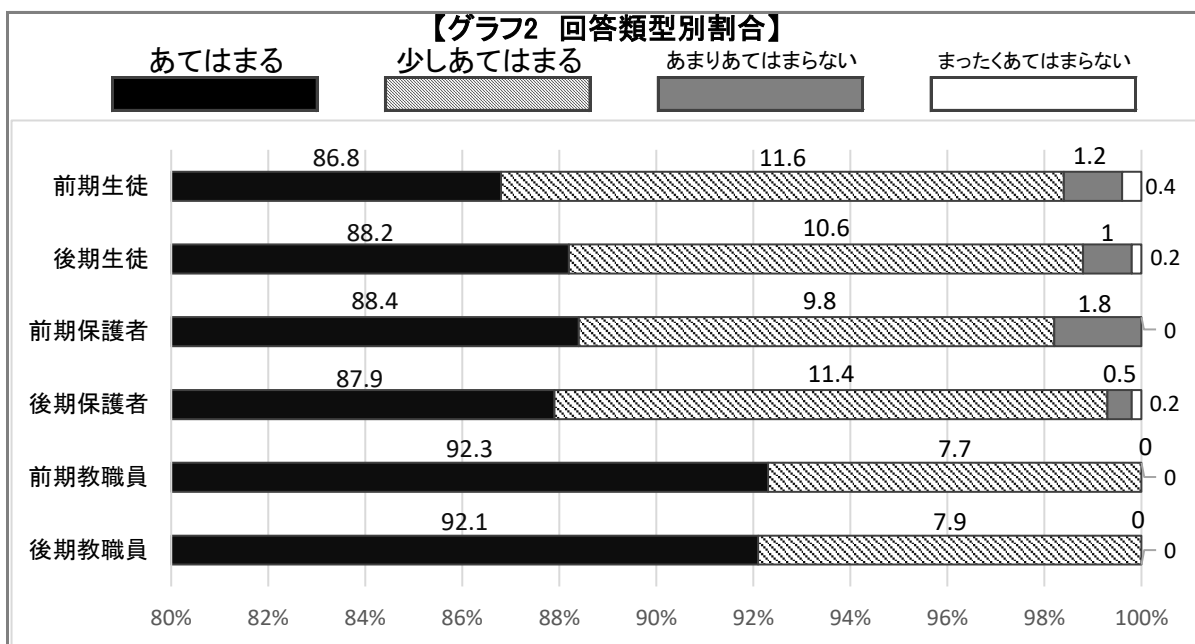
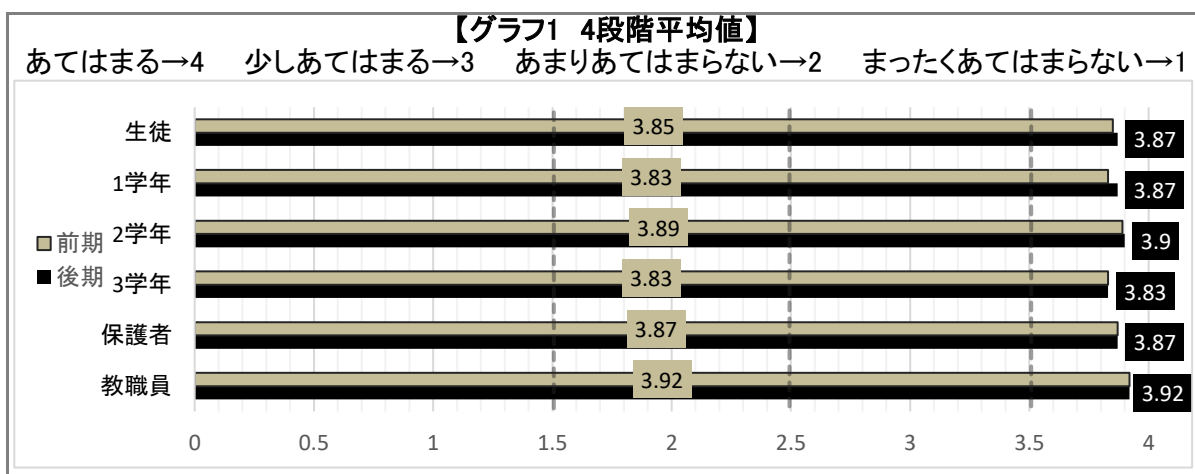
【課題】教師からの意識づけは継続しながらも、生徒が自発的に挨拶をする意識を持たせたい。生徒達の朝の挨拶はまだテンションが低く、滞りの挨拶は元気に行えるので、朝は気持ちをおこす目線が必要である。

【改善】生徒会の取り組みである毎週水曜日の「あいさつ運動」やコミュニティ・スクールの取り組みである「三校あいさつ運動」のあり方を検討したい。また、質問文の「先生や友だち、地域の人に…」という挨拶の対象者をこの三者とすることに対しても、検討したい。

No7	こころ	人権尊重
福津市	⑤ いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う	
中プロ	／	

福間中	項目	達成度	
		前	後
生徒	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	A →	A
保護者	お子さんに、いじめはどんな理由があってもいけないことだと話をしている。	A →	A
教職員	生徒に、いじめはどんな理由があってもいけないことだと指導している。	A →	A

達成度は【グラフ1 4段階平均値】が、3.5以上→A 2.5以上→B 1.5以上→C 1.5以下→D



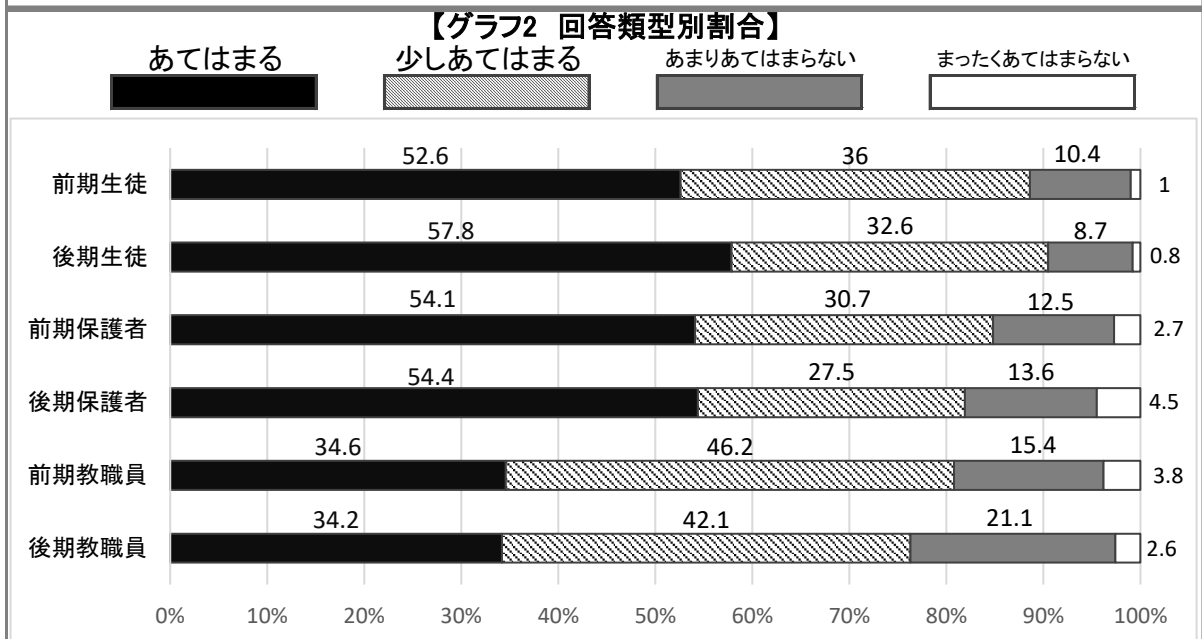
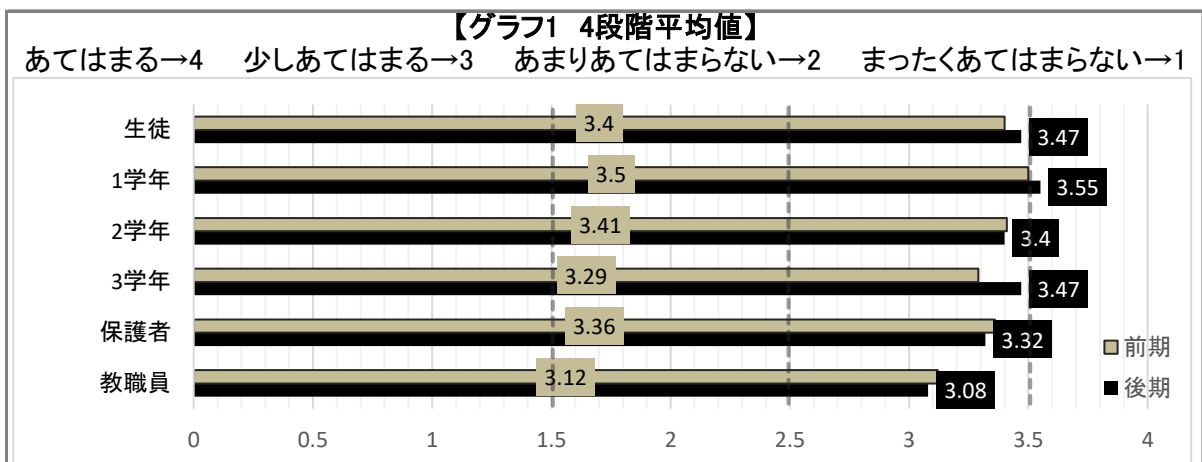
【考察】

【結果】いじめを「どんな理由があってもいけないことだ」と思っている生徒が98.8%で、意識は高い。
【課題】1～2年生は、いじめ解決への取り組みがあり、学年全体で指導が行われたことが、更に、ポイントを上げている。ただ、1.2%の生徒がいじめに異を唱えていないことが気になる。また教師も「少しあてはまる」が7.9%おり、様々ないじめ対応を経験する中で、いじめを容認していると思われぬように、指導の徹底が大切である。
【改善】毎年三者ともAが続いており、数値も高い。当然のことを尋ねすぎていて、実態を把握するデータになっていないので、来年度は少し質問文を検討したい。

No8	からだ	体力向上
福津市	／	
中プロ	(強い体をつくる) 自ら課題を設定し、目標に向かって運動に取り組むことができる	

福間中	項目	達成度	
		前	後
生徒	体育の授業や部活動、社会体育などで、自ら課題を設定し、目標に向かって運動に取り組んでいる。	B →	B
保護者	お子さんは、体育の授業や部活動、社会体育などで、自ら課題を設定し、目標に向かって運動に取り組んでいる。	B →	B
教職員	体育の授業や部活動、社会体育などで、自ら課題を設定し、目標に向かって運動に取り組むよう指導している。	B →	B

達成度は【グラフ1 4段階平均値】が、3.5以上→A 2.5以上→B 1.5以上→C 1.5以下→D



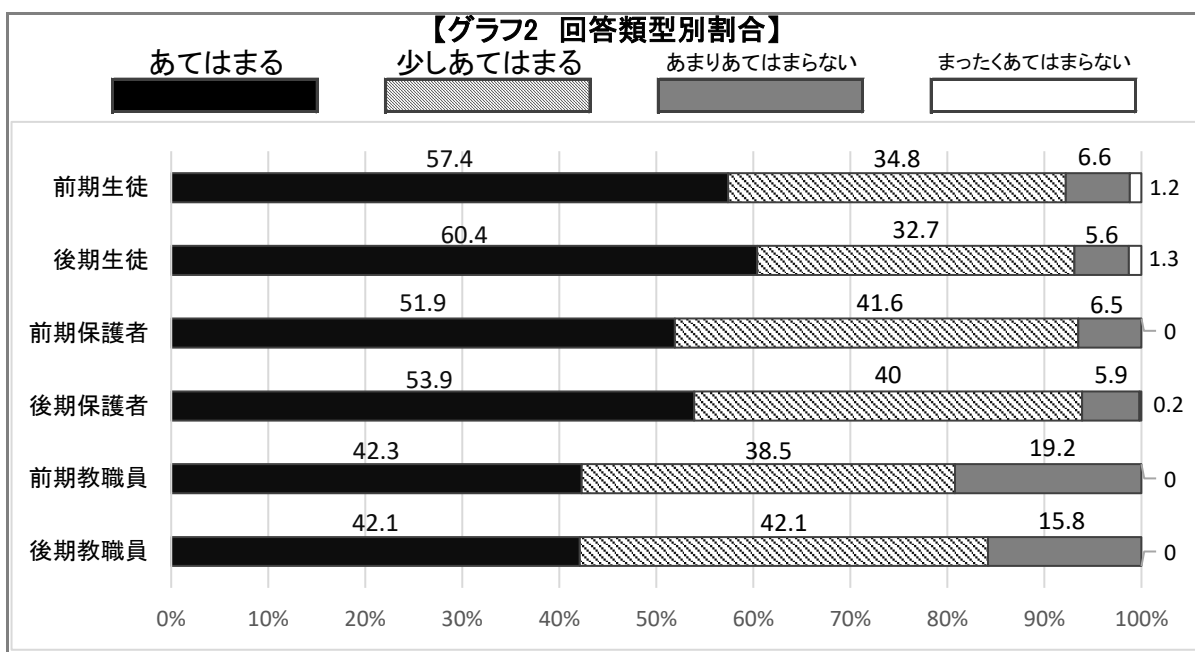
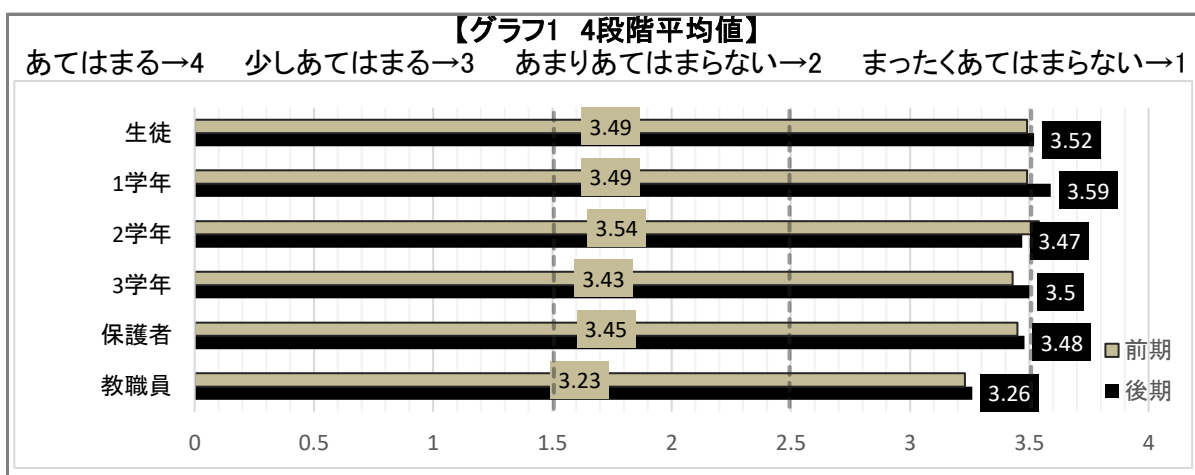
【考察】

【結果】3年生の数値が大きく上昇した。部活動を引退しても、持久走など、体育の授業に一生懸命取り組んだためと考えられる。
 【課題】保護者も教職員も、前期と変化がなく、昨年とも変化がない。しかも教職員の数値は全体に比べて低い。
 【改善】保護者への質問が、学校の体育の授業や部活動、社会体育など、保護者の目に見えにくい部分を問うており、回答しづらいようなので、「お子さんが、目標に向かって健康的な体づくりに取り組むよう、働きかけをしている。」と変更し、体力向上を目指そうとする家庭の意識調査としたい。また、教師への質問は、文化部担当の教師や運動にあまり関わりがない教師が回答しづらく、「健康的な体づくりを行うよう、働きかけをしている」に変更したい。何を知りたいのかが明確な質問文としたい。

No9	からだ	食生活
福津市	③ 毎日朝食を食べているか	
中プロ	(健康な体をつくる) 好き嫌いせず、食事を通して健康な体と心をつくることのできる	

福間中	項目	達成度	
		前	後
生徒	食事を通して健康な体づくりを行っている。	B →	A
保護者	お子さんに、朝晩の食事をバランスよくとらせている。	B →	B
教職員	生徒に、食事を通して健康な体づくりを行うように指導している。	B →	B

達成度は【グラフ1 4段階平均値】が、3.5以上→A 2.5以上→B 1.5以上→C 1.5以下→D

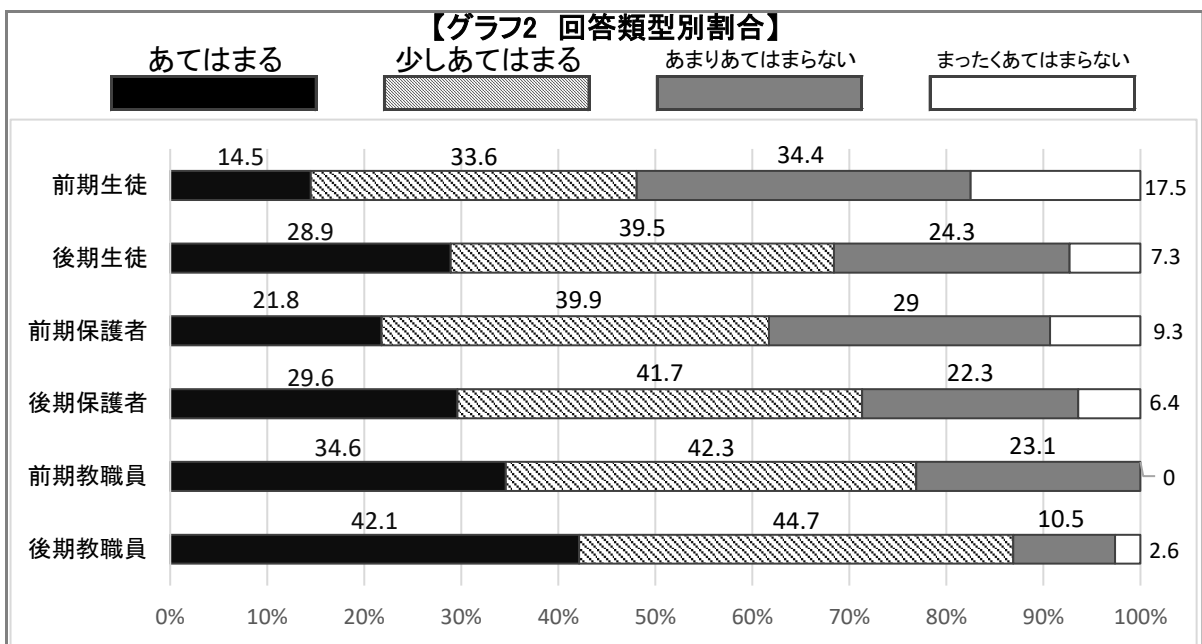
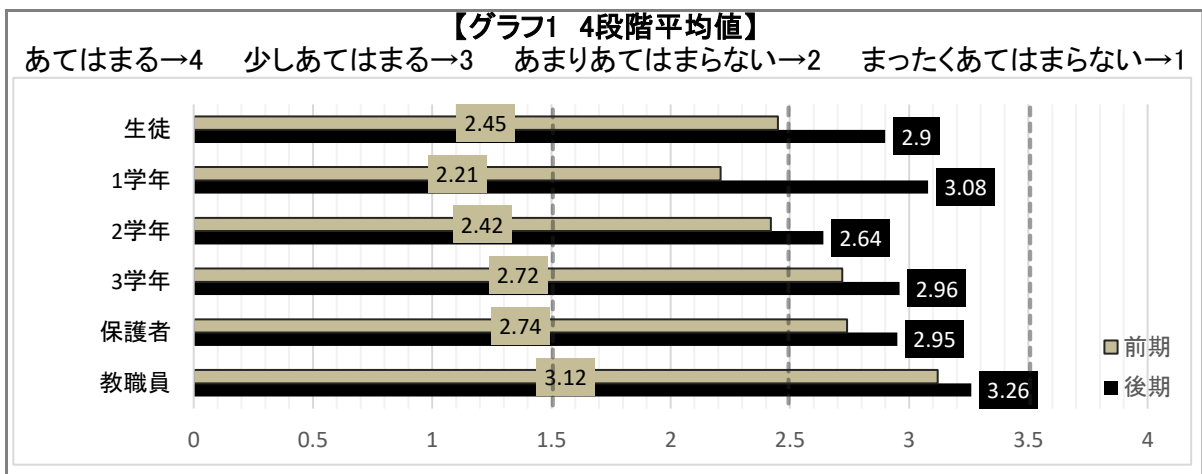


【考察】
【結果】生徒の数値が、前期に比べて上がり、A評価になった。見た目でもわかるように、1年かけて体が成長してきて、よく食べるようになった。保護者もその実感を持っており、ポイントが上がっている。
【課題】教職員の数値が全体に比べて低くなっており、給食指導を徹底させきれていないという意識があると思われる。
【改善】給食での残食を減らすための取組を行いたい。食育担当で、その方策を検討したい。

No10	家庭地域	地域参画
福津市	／	
中プロ	(貢献する) 地域のために貢献することができる	

福間中	項目	達成度	
		前	後
生徒	A: 学校主体のカリキュラム、B: 福まねきボランティア活動、C: 全校に呼びかけ集まった生徒が主体的に行う活動のいずれかに、主体的に取り組んでいる。	C	→ B
保護者	お子さんは、A: 学校主体のカリキュラム、B: 福まねきボランティア活動、C: 全校に呼びかけ集まった生徒が主体的に行う活動のいずれかに、主体的に参加している。	B	→ B
教職員	松林清掃などを通して、地域貢献の意義について指導している。	B	→ B

達成度は【グラフ1 4段階平均値】が、3.5以上→A 2.5以上→B 1.5以上→C 1.5以下→D



【考察】

【結果】後期になって、松林清掃を経験したことにより、どの学年も数値が上がってきた。そのお蔭で、家庭でも地域参画を話題にする会話が生まれているようで、保護者の数値も上がってきた。

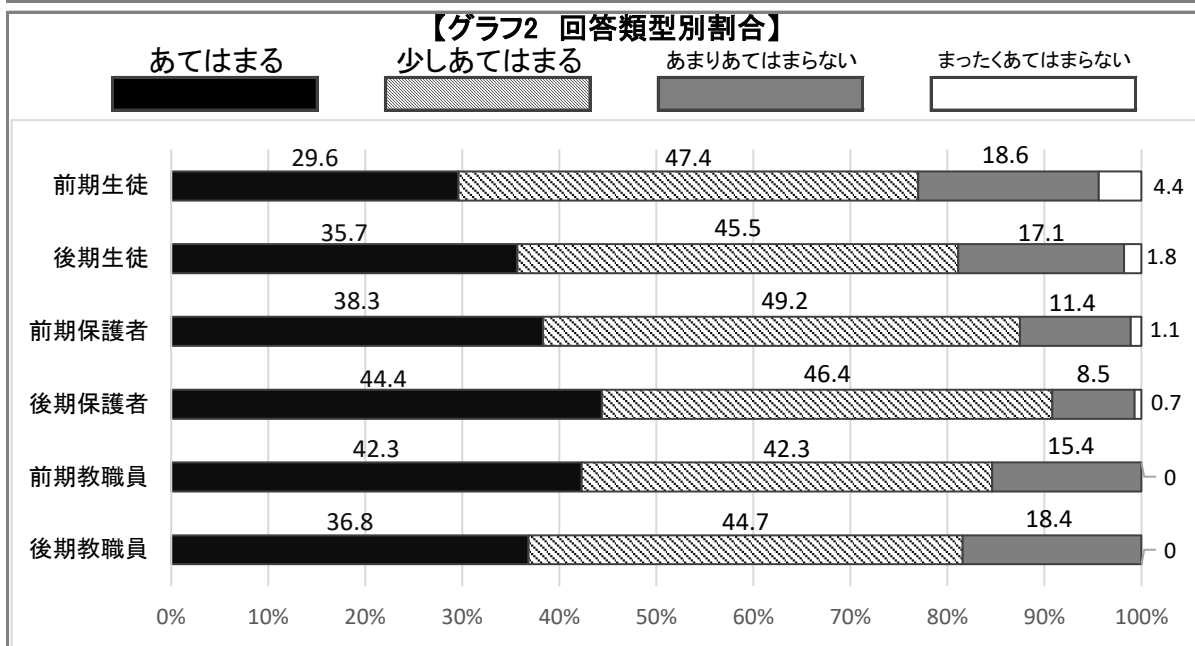
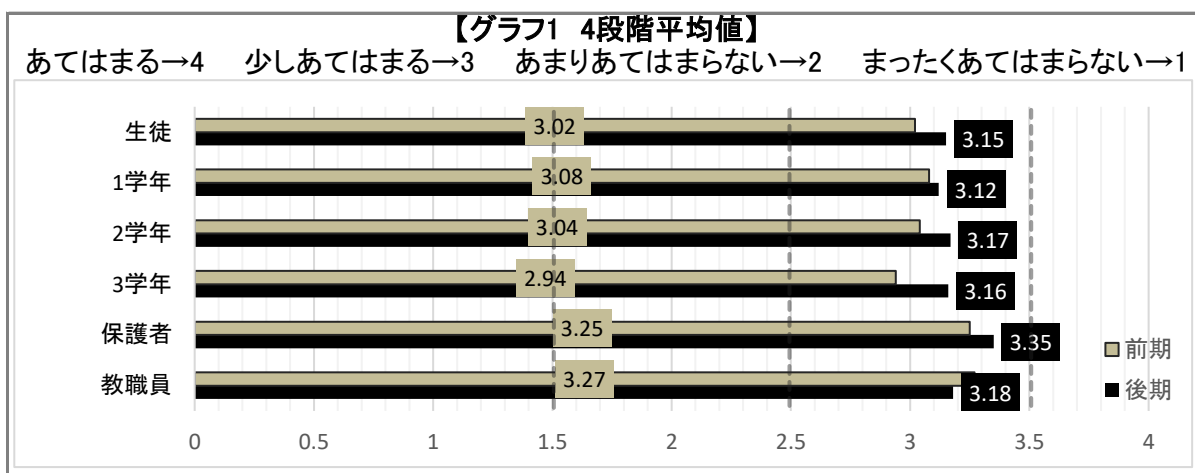
【課題】地域活動推進委員会が立ち上がり、生徒全体に地域参画のムードを作ってくれたのは、今年度の大きな成果だった。ただ、実働しているのは、3年生を中心とする特定の生徒達であり、実働する生徒をもっと学校全体に広げることが今後の課題である。

【改善】生徒達に世代交代を促し、2年生をリーダーとした推進メンバーが育つことを期待したい。卒業前に、3年生が頑張っ作り上げた地域参画の意識を、学校全体で共有する機会を持つことで、ボランティアスピリットを尊ぶ空気感を作っていきたい。

No11	地域家庭	地域への関心
福津市	⑦ 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心があるか	
中プロ	/	

福間中	項目	達成度	
		前	後
生徒	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。	B →	B
保護者	お子さんと地域や社会で起こっている問題や出来事などについて話をしている。	B →	B
教職員	生徒が地域や社会で起こっている問題や出来事について、関心をもつように指導している。	B →	B

達成度は【グラフ1 4段階平均値】が、3.5以上→A 2.5以上→B 1.5以上→C 1.5以下→D

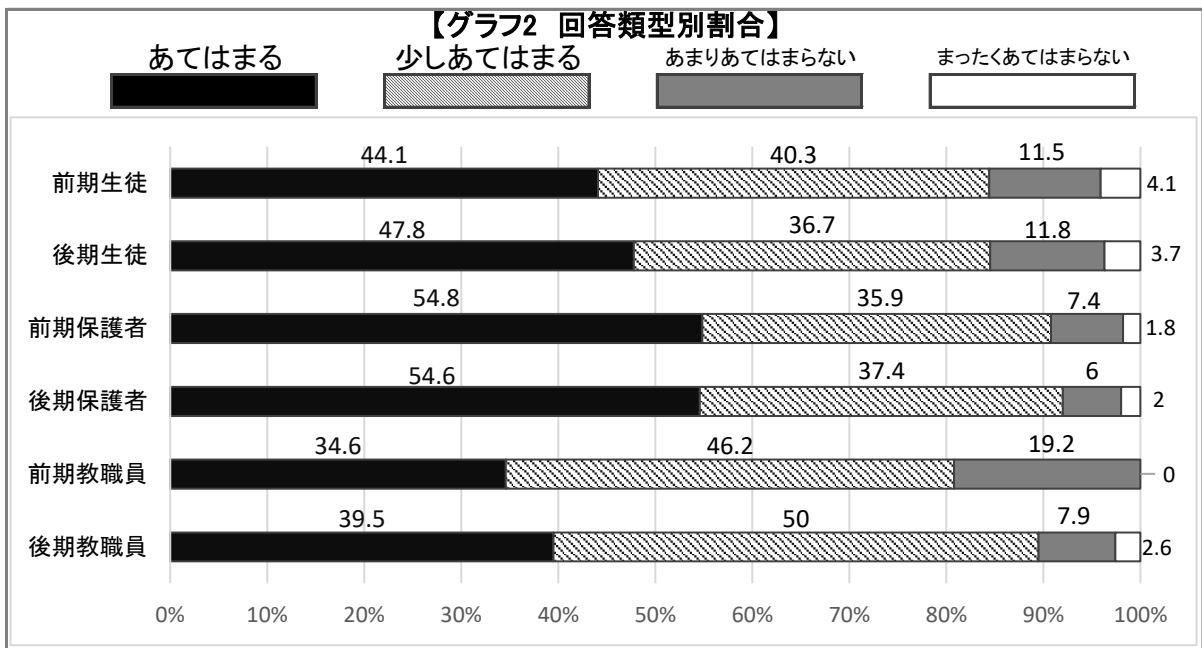
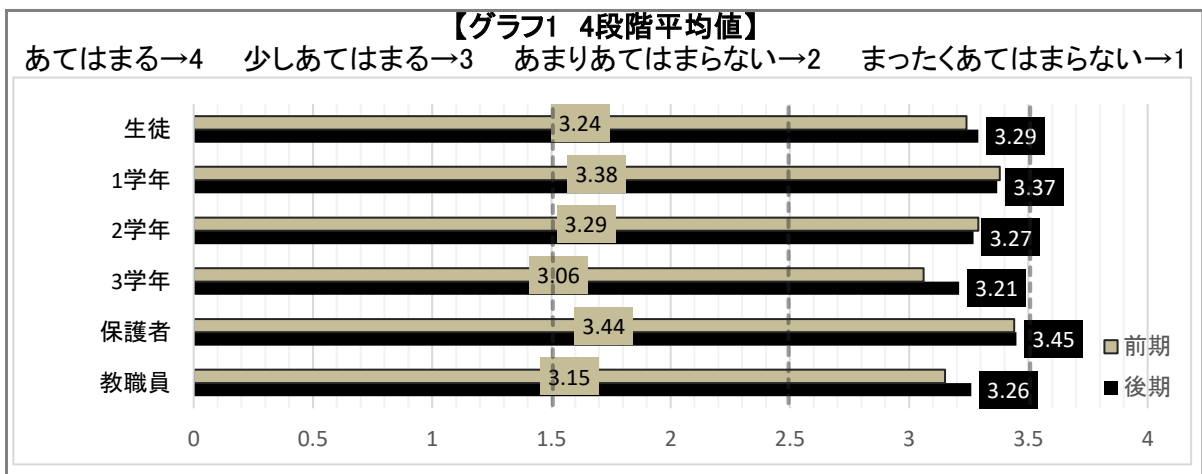


【考察】
【結果】3年生が上がってきており、未来会議での話し合い、入試面接の問答対策などを通して、社会や地域で起こっている出来事を「自分ごと」として捉えられるようになってきた。
【課題】新聞購読率が16%(1学年403名中)という現状の中、多くの情報はSNSから入ってきており、パーソナライズされて入ってくる情報は偏ったものしかなく、多くの生徒が、地域や社会で起こっている由々しき問題を知らずに、毎日を過ごしている。家庭にそういう環境づくりを期待することはもはや期待できず、学校がそういう場になる努力をしなければならない。
【改善】社会で起こっている出来事や問題を知るために、資料、掲示物、モニター映像、中学生新聞などを、生徒達の身近に置く環境づくりに努めたい。1年～3年のそれぞれの成長過程にあったニュースや情報を、校内環境の中で提示できるようにしていきたい。

No12	家庭地域	SNSとの関わり
福津市	／	
中プロ	／	

福間中	項目	達成度	
		前	後
生徒	学校や家庭で決めたスマホ等の使用ルールを守っている。	B →	B
保護者	お子さんに、学校や家庭で決めたスマホ等の使用ルールを守るよう話をしている。	B →	B
教職員	生徒に、学校や家庭で決めたスマホ等の使用ルールを守るよう話をしている。	B →	B

達成度は【グラフ1 4段階平均値】が、3.5以上→A 2.5以上→B 1.5以上→C 1.5以下→D



【考察】

【結果】PTAで作っていただいた「スマホ共同宣言」を印刷したクリアファイルを配ったり、正門横に横断幕を掲げたりして、生徒達は、スマホの使用のルールがいかに守れていないかに気づいてきた。でもまだまだ数値が高すぎる。生徒指導で多くのトラブルが起こってきた現状を思い返すと、生徒達の認識はまだまだ甘いと言わざるをえない。

【課題】保護者の認識が甘く、どれだけの家庭が、スマホ使用のルールについて家族で話し合ったり、使用状況の把握をして親子の対話をしたりしているかは、ごく少数の家庭であることが想像できる。保護者への啓発不足が大きな課題である。

【改善】「子どもへの指導」から、「保護者への啓発」の段階に来ている現状をふまえ、PTAと協力して、保護者を一同に集め、この課題を解決する必要性と深刻性を訴えるリアルな場が必要である。